第３回小山田・小山田南地区新たな学校づくり基本計画検討会　議事要旨

開催日時		2026年9月25日（水）　９：３０～１０：５０
開催場所		小山田小学校　２階多目的室（ウェブ会議併用）
出席者 (敬称略)	委員	武本委員、鹿谷委員、鏡委員、萩生田委員、小川委員、中島委員、雑賀委員、森委員、稲田委員、佐藤委員、◎悴田委員、〇望月委員、小林委員 （◎会長、〇副会長）
	事務局	指導課、教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、 保健給食課、教育センター
傍聴者		０名

議事内容（敬称略）

１　第２回検討会の振り返りについて

新たな学校推進課　（資料１説明）

会長　　今、前回の振り返りとして事務局から説明があったが、考えていることをまとめてきたので、少しお時間をいただき、私からもお伝えしたいと思う。

私は、前回、議論をしていて小山田・小山田南地区の新たな学校づくり基本検討会の立ち位置をどこに置くかを、今後、協議を進めていく上でも整理しておかなければいけないと感じた。具体的には、まちづくりの議論とのすみ分けをどうするかということになるが、この会としてはどこかに計画年次を置いて話し合わないと、学校づくりの具体的な協議ができない。中途半端になってしまって、これは未来の子どもたちや地域にもよいことではないと考えている。前回、私のいた班でも、統合年次は決め切らずに、2035年という統合年次を仮として置いて、この会の中ではあくまで学校づくりの議論を進めたいというお話が皆さんからあったかと思う。

そこで、この「仮」をどのように置くかというところだが、私の提案としては、計画として出されている以上、教育委員会が考える2035年度を想定統合年次として置きつつも、2027年度に出されるとされている小田急多摩線延伸の検討結果を見て、その結果を受けた時点で、最終的に2035年度のままでいくのか、もう少し延期するのかという判断をするというのはどうかと考えている。つまり、今の時点では、学校づくりの議論を進めるために想定として年次を置くが、決め切らない。まちづくりに関する一つの方向性が分かった時点で最終判断をするという考え方で、この会を会長として進めていきたいと考えている。

私は、この地域に、よりよい学校をつくることが、まちづくりにとっても非常に大切なことだと考えている。そのための基本計画検討会であると考えているので、そういう前提でこの検討会の協議を進めていきたいと思うが、皆さんのお考えはいかがか。

〔　委員賛同　〕

会長　　それでは、そのような前提で進めていきたい。事務局からは何かあるか。

新たな学校推進課　一点皆様に確認したい。今、会長から方向性のお話があったが、検討会の報告書の中にも、会長からお話しいただいたこの会としての立ち位置、考え方を明記する形で最終的にまとめていくということで、よろしいか。

〔　委員賛同　〕

会長　　しっかり記録しておくことをお願いする。
それでは、この会の趣旨を大切にして、本日の議題を進めていく。

２　論点ごとの意見交換

新たな学校推進課　（資料２－１、２－２説明）

会長　　それでは、今から30分を目安に議論をお願いしたい。

〔　意見交換　〕

会長　　それでは、そろそろ発表に移りたいと思う。
「特色ある教育活動について」ということでグループ協議をしていただいた。グループの代表の方に、グループでどんな話が出たかをお話ししていただき、その後自由討議ということで進めたいと思う。

委員　　特徴のある教育活動ということで、緑地に行っての自然観察、皆さんにご協力いただいている田んぼ、稲刈り、わら細工、それからお餅つき、このあたりは結構リアルな体験であるし、農業委員さんとの触れ合いを見ていると結構面白い。おじいちゃんたちと話が通じないところから始まって、熱心に伝え方をいろいろ工夫してくれて、子どもたちも一生懸命聞いてみたいな、世代の幅のある中の交流がすごくいいなと思っている。あとは緑地の活動もすごく減っていて、せっかく近いのだからもっとあったらいいなという意見もあった。
それと、南小には八木節があるが、以前はもっとお祭りで演奏させてもらったりとか、学校の運動会で披露したりとか、地域や保護者の皆さんに見てもらう機会がすごく多かった。小さい子どもたちは、それに憧れて６年生になったら、ああやってみんなの前でやるんだとか、八木節をやった子たちは、ずっとそのリズムを覚えていてとか、そういう心に残る活動というのは、すごくこの地域で暮らしたんだなというアイデンティティにもなる。そういったものが、新しく作るのかどうか分からないけれど、何かがあるとすごくいいなと思った。
それから、南小では、学力を上げていこうということで、校長先生が一生懸命やってくださっている、100マス計算と漢字の取組がある。Ｋ－１グランプリ、すご

く盛り上がっているので、保護者たちはみんな続けてほしいなと思っている。

委員　　私は小山田小の学区なので、自分の学区のことの話をさせていただく。

小山田小学校は鶴見川の源流に位置する学校ということで、学校教育の中でも鶴見川の源流域としての役割などを学習されている。大雨などで色々なところで災害が起きているが、源流の森、森林が雨などの水を吸い込むことによって下流の横浜、川崎といった鶴見川の下流に水が大量に流れないように、緑のダムの役割をしているということを、学校教育の中で重要項目として教えていると思う。こういったことは、子どもたちの郷土愛とか地元愛などを育むことにも非常に貢献していると思うので、これは続けていっていただきたいと思う。

具体的な学習の中身は、自然を大切にするということで、小山田の源流の森の辺りに行ってドングリの苗木を植えたり、鶴見川の流域に咲くようなヤブカンゾウやノカンゾウの植樹もやっている。それから一番大事なことは、本当に学校の近いところに自然があるので、小学校の前の田んぼで子どもたちがもち米を作って、稲刈り、餅つきまで一体として地域の皆さん、地元と一緒にやっていくということで非常にいいと思う。

あと、小山田小学校の裏山も高いところにあるが、環境学習林になっていて、横の階段を上がっていってすぐ自然観察ができる。今、倒木で休止しているが、そういった環境、あるいは小山田緑地も近いので、そういったところへ行って、とにかく自然にあふれた地域で、かなり地元の人たちも協力していろんなことをやっているということで、地元を大切にするということで非常にいいことだなと思うので、こういったことを続けていけたらいいと思う。

委員　　今まで出たように、小山田小の周りには自然がたくさんあって、ドングリを植えて苗木を育てて植樹をするとか、鶴見川源流に関しての勉強をしていくとか、小山田緑地に行ったりとか、田んぼをやったりとかということができることが大事なものだなと思っている。そういうことを通じて、子どもたちがお餅をついたら、自分たちは５年生で田んぼを作ったけれども、低学年からみんなにお餅を分け与えようとか、他の学年が作った大根をもらって大根おろしを作ろうとか、それぞれのつながりがあるというのがすごくいいなと思っている。

あと、地域の人たちの力添えがあって、サマースクールというのもやっていて、子どもたちが知らない大人の人たちと交流ができる、それから自分とは同じ学年ではない知らない子どもたちと交流しながら、考えたり話し合ったりするというのも、ここの学校の特徴ではないかなと思う。

委員　　基本的には、やはり小山田小、あるいは小山田南小も、周辺が自然に恵まれているということで、田んぼにしても、川にしても、源流にしても、それらをうまく使う。山にしても、緑地にしても、そういうのがやはり一番特徴ある学校づくりができるかなというのが一つ。

あと、小山田は歴史がある。小山田城址だとか、あるいは大泉寺みたいな古いお寺だとか、そういったものもせっかく地域にあるので生かせたらいいのかなと。

今、皆さんから出た話以外では、歴史の関係も、せっかくだから生かせればいいなというのがある。

それから、自然教育の中でも、わら細工というお話しもあったけれども、昔は、この地域には幾つかの籠屋さんがあった。また、この辺の山は薪炭林といって、ほとんど炭と薪だった。難しいことをやらなくてもいいと思うが、ちょこっとした竹細工ができる職人もどこかにはいるかもしれないので、竹とんぼを作るとか、炭も簡単な焼き方もあるので、使えたらちょっと面白いかなという気がした。そういうものも少し行うと、自然教育プラス自然利用ができてちょっと面白いかなという気がした。

委員　いいところはたくさん、もう全て皆さんから出たので、校長としての視点から少しお話をしたい。

私は、今まで５、６校に勤務したが、この小山田地区の教育環境は、私が今まで勤務した中で断トツのナンバーワンである。子育てにこれほど向いている、子どもたちが育つにあたってこれほどのベストな環境はないというのがこの地域だと、これはお世辞でなく本当に感じている。自然があり、遊ぶところがふんだんにあり、公園やすてきな児童館もあり、帰り道には緑や田んぼ、畑があって、そして、その中で子どもたちが生き生きと外で遊んでいる姿はもう都心では見ない。ここで子育てするということをチョイスした皆さんは、本当に素晴らしい選択だなと私はいつも思っている。

そういう中で、学校は、校長が代われば変わることもたくさんある。一方で校長が代わっても変わらないものもある。例えば教育方針とか経営方針などは校長が代われば変わる。それは２年かもしれないし、３年、４年かもしれない。だけれども、校長が代わっても変わらないもの、それが今話し合うことかなと思う。それがこの環境であり、地域の資源であり、そして受け継がれた伝統である。そういうものをどう教育に取り入れていくかというところだと思う。

これからは探究学習を進めていく流れになっている。つまり、自分たちで課題を設定してとことん調べて、そして自分たちで答えがないものに答えを出していくというようなものである。その探究学習という点においても、小山田地区のこの自然、そして環境は、私はベストな材料になるし、子どもたちにとってとてもいい学習の元になると思っている。

会長　各グループからたくさんのことが出されたと思う。この後は、今のご意見も聞きながら、改めてご自身の考えや、気づいたところを自由討議したいと思う。

委員　先ほどグループで話していたときにも感じていたのだが、私たちが今まで挙げた地域資源を生かすには、やっぱり人が必要だよねというところ。2035年に仮に学校がスタートしたとして、そこから10年、20年となっていくときに、今ご活躍いただいている皆さんがどれほどいるかということと、その思いを受け継ぐ次の人材がどれほど育つかというところがすごくキーだなと感じている。ハコを作るのは簡単だと思うけれど、こういった中身を生かしていく、続けていく、広げていくとい

うところで、その人材にちょっと不安があると同時に、私たち今の大人、40代、50代がもうちょっと頑張らないといけないと感じている。

委員　　確かにそうだと思う。いろんな面で技術とか、そういうものを今持っている人たちが次の人たちに伝えていかないと、子どもたちにも伝えられないので、その辺を育てていかないといけないなとは思う。現在、私は少しずつそうしているつもりではある。

委員　　学校に関わっている地域のコミュニティが、小山田小学校と小山田南小学校でだいぶ違うのではないかという感覚を持っている。小山田小学校の学区に住んでいる人たちは農家もまだある。農家の関係で関わっている方も多くいらっしゃるが、一方、小山田南小のほうを考えてみると、基本的には団地という特性があり、農業をやっている方は多分いらっしゃらないのではないかと想像する。地域に住んでいる人たちが学校に関わるときに、そういったことは結構大事なことだと思う。

今後、小山田小学区の中でも農家は当然減っていくが、そうはいっても集約化したりして、後継者が育っている家もあるので、その人たちになるべく働きかけて協力を仰いでいけば、今やっている小山田学習などもまだ続けてはいけると思うが、これは努力が必要だと思う。

もし統合した場合に、自然を生かした学習をいかに続けられるかということは非常に大切なことだと思っているが、現実問題として、小山田南小の場所になったとしたら、かなり小山田小からは遠くなってしまうので、いろんな関わりでこれまでのように対応できるかという問題がある。また、自然が小山田小側のほうに多く残っているので、それを活用するとしても、小山田南小からは遠くなってしまうと。

こういった物理的な問題を解決していかないと、今後、自然を生かしながら学習していくというのはかなり難しくなってしまうのではないかなという危惧を持っているので、そこをどうやって継続していくかというのを考えていくことが一つの大きなポイントだと思っている。

委員　　この前聞いたことだが、世田谷の学校から小山田緑地に遠足に来ていると聞いて、「えーっ、わざわざ来るんだ」というふうに思った。小山田南小と小山田小、ここにいると距離があるように見えるが、小山田南小からの源流学習、行かせたいと思う。全然遠くないと思う。皆さん、小山田南小に来て何かやっていただくというと、ちょっと遠いなとなるかもしれませんが、言うほど遠くないと私は思うし、高齢化して移動が、ということだったら、交通の面などをいろいろ工夫して乗り越えられればなと思う。この距離は全然遠くないぞ、と私は思っている。

委員　　私も距離的なことを言えば、そんなに遠くないなと思う。せっかくなので、もっと今から交流してもいいんじゃないかなと思うぐらい。せっかく小山田の地区の子どもたちなので、小山田小だ、小山田南小だという感じではなくて、みんなで集まって、何か今からでもできたらすごく楽しいんじゃないかな。小山田小学校の子どもたちもいろんな経験をしていて、小山田南小の子もいろいろやっていると思うので、それはもっと交流をして、もっと広げていけたほうが、今、大切なことをたく

さんの子どもたちに経験させて裾野が広がっていったらいいんじゃないかなと思った。

委員　　遠いか近いかという話で言うと、そんなに私も遠くはないとは思っているが、一つ考えなきゃいけないのは、若い人たちには遠くない。ところが、学習を応援している皆さんは高齢者の方が多い。若い方は近いんだけれども、高齢者には遠い。高齢者は経験を踏んでいるので、子どもたちにいろんなことを教えるのは非常に適しているが、近いから参加しているというのがあって、遠くなると車に乗っていくとしても、運転するのも大変だとか、いろんなことが起きてしまって、足が遠くなってしまうという傾向はあるなと思っている。私は、そういう意味で課題だなと申し上げたので、遠いか近いかといったら、そんなに遠いとは思っていない。

委員　　総合的な学習で、今、３年生から６年生まで週２時間やっていると思う。実はつい最近、ある新聞にも載っていたので見られた方もいるかもしれないが、2030年の学習指導要領の中で、総合的な学習の２時間のうち、最大１時間、ＡＩの利用ルールやリスクの対応だとかに使えるということが出ていた。つまり、総合的な学習が少し減っちゃうと。最大35時間なので、どれぐらいかは予測がつかないけれども、今、２時間でも結構きついのかなと思う中で、そこからさらに時間を減らして、総合的な学習の時間の中に別の教科が入り込むみたいなイメージかと思うが、そういう内容が８月31日の夕刊に載っていた。

僕も驚いたが、内容を読んでみると、小学生はＡＩの知力の特徴やネット依存といったリスクへの対応、情報の信頼性の確認など、ルールを守って安全に利用する方法を学習する。それは年間35時間以内で、具体的にはまだはっきり載っていないが、それだけ取られてしまうと、小山田学習がちゃんと機能するのかどうか分からない。

明らかに時間数が減ることで、鶴見川を中心としていかに我々が水に関わってきたか、昔の人はどうやってこの地に根を生やして生活し、どんなことを考えてきていたか、我々は子どもたちが大人になったときにどうしたらいいんだろうか、というようなことを学ぶのが実は総合的な学習だと僕は思っているけれども、そういったことが何となくできない雰囲気になってくるのかなと。

2030年と言ったが、新聞だけを見ると、2028年から実施するという話である。先ほど小山田南小と小山田小が一緒になってというお話しは、すごくいいアイデアで面白いなと思うけれども、時間的にどんどん減ってきているというのが情けない話と思う。もっと小山田小の過去を知って、なぜこんな山になっているかとか、水のことを勉強していくと、もっともっと深まりがあって、さっき校長先生が言われたように、探究学習がさらに進むんだろうなと僕は思ったのだが、何か逆のようなことが新聞に載っていたので、皆さんにお話した。

会長　　たくさんご意見をいただいた。とても深い意見が出てきて、我々教育関係者にとっては非常にこれから考えていかなきゃいけないことだと思っている。今日、皆さんからは、やはりこの自然環境とか地域の人材とか、そういうものを生かした教育

活動をぜひ残していきたいと。できれば、歴史や自然も活用した教育活動を組み込んだ教育課程をつくっていきたいというようなご意見が多かったかなと思う。

ただ、その裏にはいろいろと課題もあるし、我々が教育を通して、国からの話もあったりして変わっていかなきゃいけない現実もあるというところは考えなければいけないかと思う。

新たな学校推進課　今、会長にも整理していただいたが、ご意見は整理して、また議事録ができたら次回確認をして振り返りたいと思う。

１点、私からは、冒頭の説明の中でお話をした意見募集について、特に異論がなければ、次回、第４回のときに設問をご提示させていただいて、少し意見をいただいて、変えるところは変えて、10月中旬から11月中旬ぐらいにかけて展開していきたいと思っているので、よろしくお願いしたい。

会長　　それでは、次回、広くアンケートを取るようなものも提示していくということで、皆様のご意見を頂戴したいと思う。

３　今後の検討課題について

新たな学校推進課　（参考資料１説明）

会長　　本日の議題は以上となる。次回の開催について、事務局から連絡をお願いする。

新たな学校推進課　（次回開催日程確認、事務連絡）

委員　　小山田小のことはある程度分かっていても、小山田南小のことはわからないこと多い。こんなところに地域の人が関わって子どもたちを育てている、みたいな資料があれば、お互いの話がより深くなると思う。小山田小の立場から言えば、小山田南小の何かをつかみたいなという部分も、地域の人間としてなんか応用できるかなとか思うかもしれないし、そういうところが理解につながるかなと思うのだがどうか。先生方に大変申し訳ないが、お願いできればと思う。

委員　　校長二名で頑張りたいと思う。

委員　　今度健全育成のほうで委員会があり、学校統合に関する話をしたいなと思っているがよろしいか。

新たな学校推進課　もちろん構わない。

委員　　委員の皆さんからいろんな意見を拾いたいなと思う。

新たな学校推進課　ぜひそれぞれの皆さんの団体さんでお話をいただいて、意見を吸い上げてもらえれば助かる。

委員　　念押しなのだが、最初にお話しいただいた内容で、2035年が独り歩きしているという感覚というか、その辺を流動的な見方をしていただけるというようなお話があり、特に次回、新たな学校に関する意見収集について案が出てくるというお話があったので、配れば当然学校統合について周知されるので、その辺のところをきち

っと書き込んでいただきたいなと思う。

　これまで「まちだの教育」であってもほかのものであっても、小山田地区については2035年としか書かれていないので、やはりもうちょっと流動的なというか、変わる可能性もありますよみたいなことをきちんと謳っていただきたいと思う。そうしないと、もう決まっちゃっているというふうに我々はよく聞かされているので、その辺の誤解のないようにしていただきたいと思う。

会長　　（閉会の挨拶）